

# クリニックにおけるチーム医療を高めるための 『生成AIを活用した1on1ミーティング』実証実験レポート

期間：2023年12月-2024年3月（4ヶ月間）  
対象：社会医療法人清風會 湯郷ファミリークリニック

AI for Community Health Care Lab

# 実証実験背景

これからの地域医療ってどうなるのだろうか？



過疎化

採用の難しさ

医療に対するニーズの多様化

人手不足

医療の継続

医療現場のマネジメント

# 医療現場のマネジメントの課題

良いチーム医療のための時間が不足している



メンバーの不安  
不満、不信の把握

課題の可視化

改善アイデアなど  
の吸い上げ



医療現場の  
コミュニケーション  
を充実させたい

→ けど、忙しい

→ 何を話せばよい？

# 検討に検討を重ねて新しいチャレンジを実施

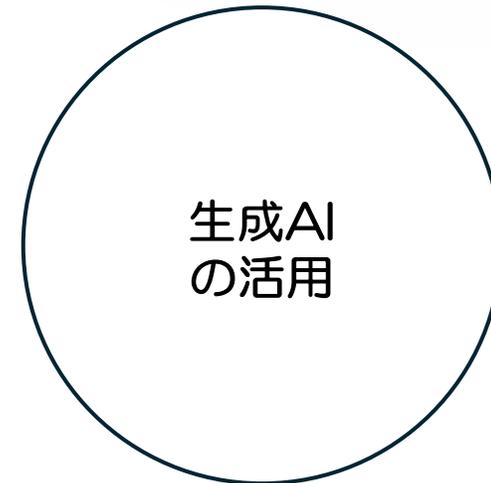


コミュニケーションの  
時間を確保しよう！



+

時間が足りていないなら  
AIを活用しよう！



# AIの活用方法の検討論点

事前にスタッフがAIと対話して論点を整理する→関係性の量と質をカバー

従来はなかった取り組み



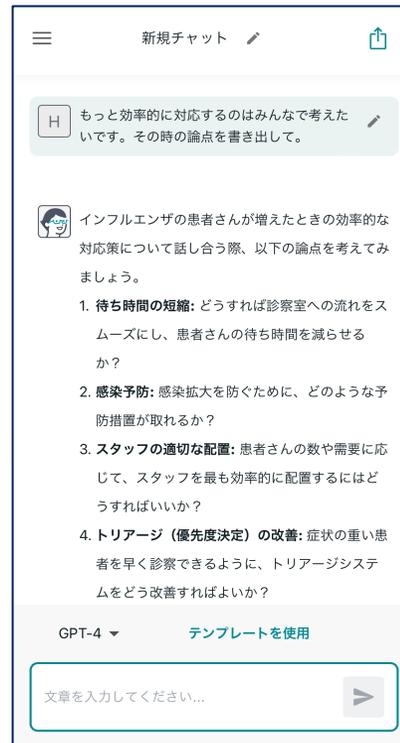
悩み

アイデア

キャリア

などなど

ChatGPTベースの  
AIと壁打ちを実施  
論点を整理



考えが整理され、拡  
張される

ミーティングの内容  
がシャープになる

事前整理により問題  
点が明らかになる

# 実証実験サマリー

## ■目的

多忙でスタッフケアの余裕を持ち得ない医療現場マネジメントの一助になるアプローチを探索

## ■課題

- コミュニケーションの頻度と質についての不足
- 経営的には退職による採用費の負担に課題

## ■仮説

業務以外のテーマで上司と相談できる時間を取ることと、その際に論点が整理された状態でミーティングができるように生成AIを活用することが生産性の観点で有効かを検証。

## ■実施内容

- ①サテライトクリニックを対象に業務ミーティングとは別の1on1ミーティングを定期的に設定
- ②ミーティング前に生成AIと対話を行い、論点の洗い出しを行った上で1on1ミーティングを実施
- ③4ヶ月3回の実施。1on1ミーティング後に定例のフィードバック会議を実施

\*以後のページではミーティングをMTGと表現

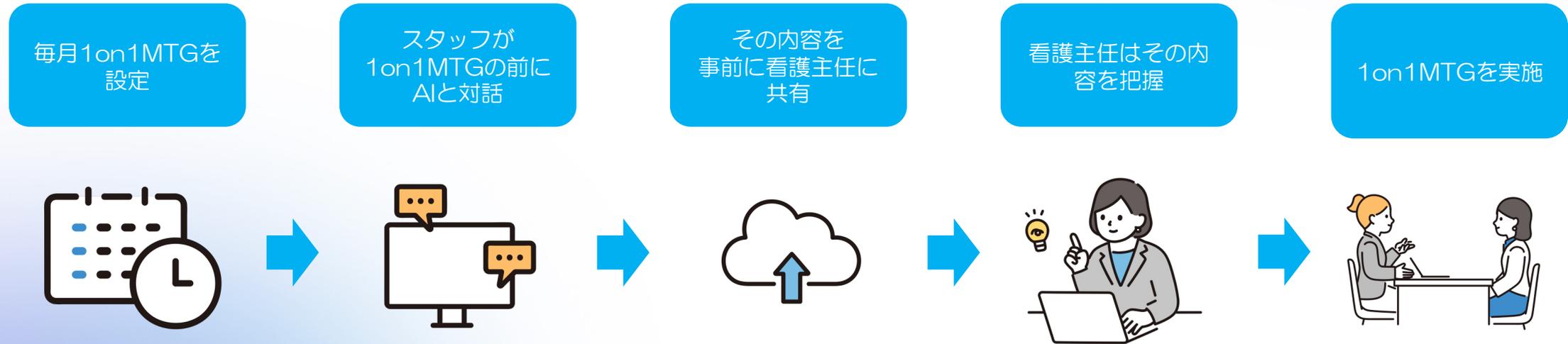
# 実施フロー

期間：2023年12月-2024年3月（4ヶ月間）

対象：社会医療法人清風會 湯郷ファミリークリニック

看護主任1名 医師1名 看護師6名 医事2名 にて実施

利用ツール：株式会社Algomatic『シゴラクAI』



# AIツール操作フロー

## 新規チャット選択



## AIと対話



H 初めて1on1mtgを実施します。何を話題にして良いかわかりません。来年のことか話せるといいかもしれません。

初めての1on1ミーティング、緊張するかもしれませんね。効果的な会話を行うためには、明確な目標と計画を持つことが大切です。以下に、具体的な話題の例をいくつか提示します。

**1. 個人の成果と挑戦：**

「過去年間で得られた主な成果や達成した目標についてお伝えしたいと思います。また、直面している課題と、それをどう解決するかについても話させていただきます。」

**2. 来年の目標：**



## 会話内容を上司に共有



メールで  
送信



# アンケート結果①実施状況の前提

## 生成AI利用量（文字数）

1ヶ月目：137万文字

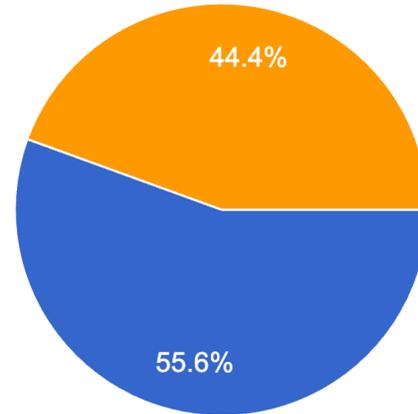
2ヶ月目：123万文字

3ヶ月目：92万文字

4ヶ月目：132万文字

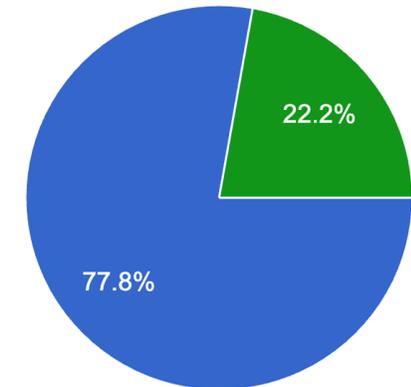
クリニックスタッフ10名で1ヶ月間の  
生成AI文字量

## 1on1MTGについて



- 機会があったほうが嬉しい
- なくても別にいい
- 1on1MTGの内容次第
- 1on1MTGの意味が分からない

## AIについてうまく活用できる ようになりたい？

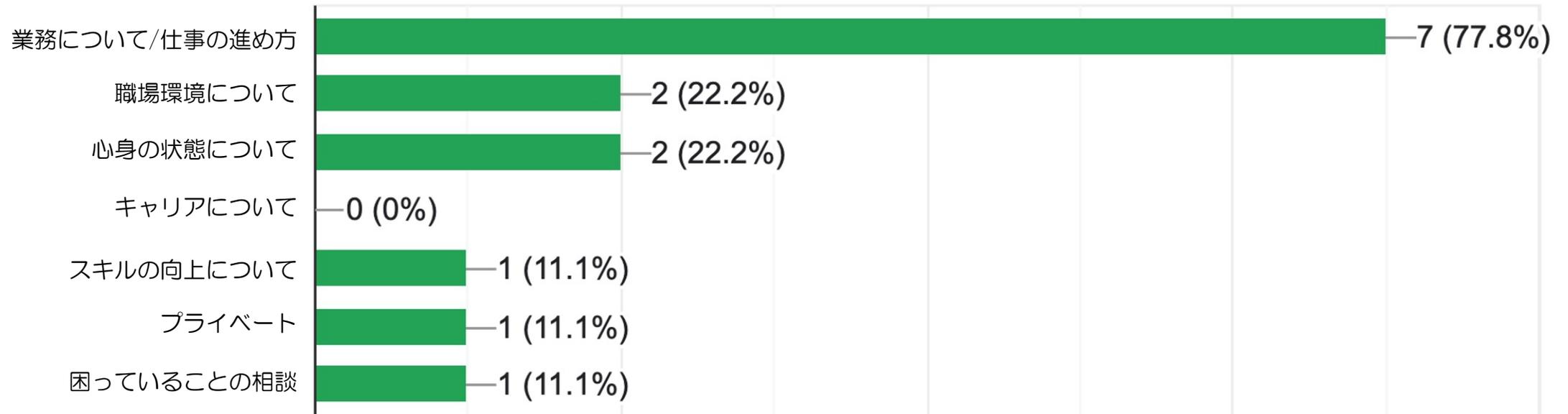


- 活用してみたい
- あまり興味がない
- 難しい
- よく分からない

利用文字量について他社平均利用量比較で約3倍以上。上司とのコミュニケーションのためという明確な運用設計が利用量を押し上げ。1on1MTGにおいてもAIの活用においても回数を重ねるたびに肯定割合が増加。

# アンケート結果②MTG内容について

1on1はどのようなテーマで行いましたか？（複数選択）



3度の1on1MTGの中で、業務や仕事の進め方についての話題が増加。  
前回のMTGでのテーマを次のMTGで継続して掘り下げるといった利用の仕方も複数名が実施。

# アンケート結果③MTGにおける定性情報

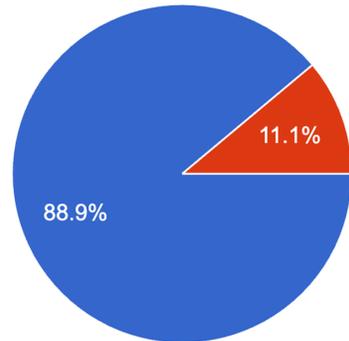
1on1MTGを実施してご自身が働く上で新たな発見や気づきがあれば教えてください

- 自分自身について改めて考えさせられる時間ができた。
- 議題に上がる内容が、今後の業務見直しに必要な業務なのだと思います。
- 表面上の事だけではなく、今抱えている思いなどを率直に表現して伝えることができた気がしている。
- 普段話をする機会がなかなか忙しいとできないが、今回の機会で話し合いがもてたのでよかったと思う。
- まだ不慣れな部分もあり、毎回「何を聞こうか。。。 」とネタ探してみたいになっているので、もう少し自然と使えるようになればいいのですが日々の業務に追われ、考える時間すらないという感じです。
- スタッフそれぞれで気づきを得られる機会になっていると思います。本人の仕事の悩みを言語化し問題点を洗い出す有効なツールとなっているようです。また1on1MTGをキッカにした業務改善アイデアがこの2,3ヶ月で出ているのも1on1MTGの利点と感じています。1on1MTGに参加したスタッフも上司に自分の意見を聞いてもらえた満足感も得られているのではないかと思います。

業務の多忙さが存在する中で、改めて1on1MTGの時間を取ることができる意味は見出されている。日常会話や業務MTG以外での時間の持ち方が仕事の仕方の見直しと上司との対話できる関係構築に寄与。

# アンケート結果④生成AIの壁打ち相手としての有用性

## MTGにおける生成AIの有用性



- 有効
- 有効性を感じない

## その理由

### 有効

上司はミーティング前に問題点や議論すべきポイントを把握することができ、話し合いの時間をより効果的に使い、部下が抱える問題や懸念に対して的確なアドバイスや解決策を提供することができること。

AIとの対話で会話が進み、一緒に考えて頂けるのでよかった

業務の問題点や改善しないといけないことがわかる。話やすさ。

事前に対話があると、自分の課題の糸口が見つかる気がします

話す内容が事前にわかるため早く終わる

### 有効性を感じない

上司と直接会って話した方が早いと思うから

90%のポジティブを獲得。

部下が主体的に論点整理をする機会と自分の経験値だけでなく壁打ち相手として生成AIが有効であるとスタッフも実感。

# アンケート結果⑤1on1MTGの意味

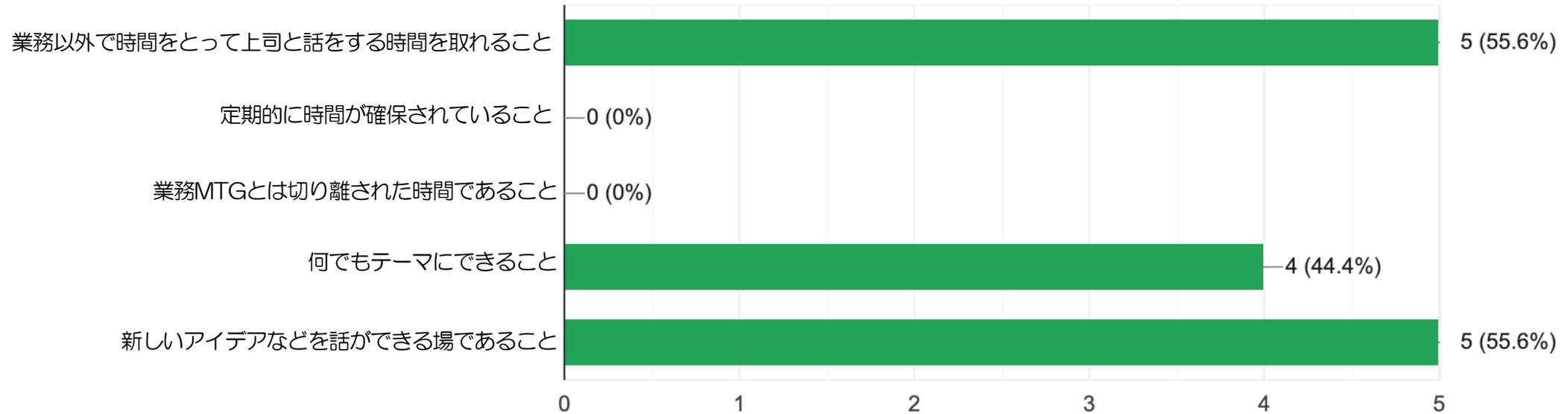
1on1MTGをご自身にとって何のために使いたいですか？（複数選択）



1on1MTGの機会については幅広く期待が存在。特に業務や仕事の進め方についての割合が多いが、共感やアイデア相談、悩み相談という項目は業務MTGでは持ち得ない。

# アンケート結果⑥1on1MTGの要素

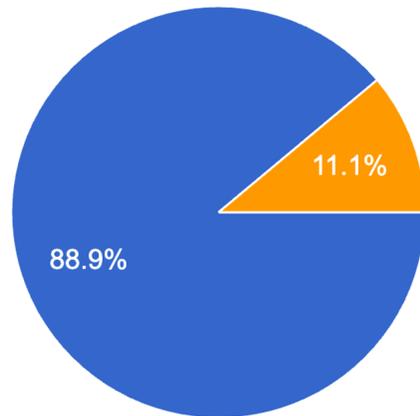
1on1の重要な要素は何だと思いますか？（複数選択）



俯瞰して1on1MTGの要素を伺うアンケート。  
業務以外で時間を取ること、テーマの自由度、アイデアについて話ができるというのは従来にはない枠組み。

# アンケート結果⑦今回の枠組みの有用性

他の医療機関でも有効と  
思いますか？



- 有効
- 有効とは思わない
- ケースバイケース

その理由

## 有効

- 他の事業所でも同じ悩みや課題を抱えていると思うから。
- 業務効率化やアイデア・プライベートでも利用できる。
- 1on1ミーティングというものの運用ルールをきちんと決めた上での活用となるとAIの解析能力と人間の感情や直感、そして現場での経験といった要素との組み合わせを最大限に活用することに繋がるようになれば有効になると考えられる。
- 色々な回答が返ってくるので面白いし参考になりました。
- 問題となっていること、改善策と一緒に考えることができる。関係作り。
- まだ十分に理解できてはいるが、活用することで個人の役割・課題なども明確になる気がする

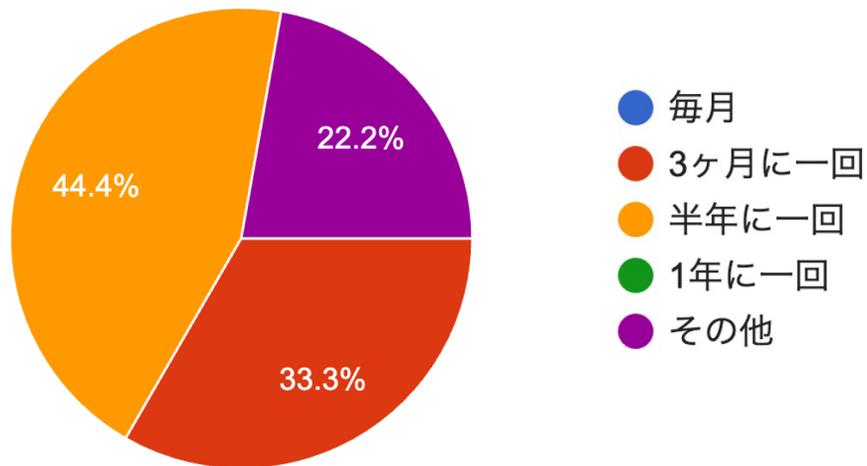
## ケースバイケース

- AIに聞くこと自体時間をとられるので

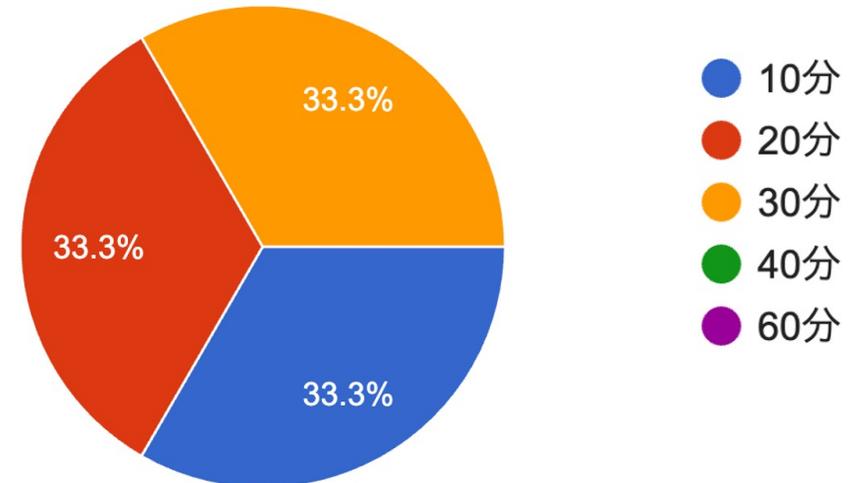
90%がポジティブ。他の医療機関でも共通する状況であり、課題に対して有効と推察。  
AIの活用についての利用のしやすさや枠組み作りは重要。

# アンケート結果⑧1on1MTG実施の形式について

1on1MTGの頻度はどれくらいが適切だと思いますか？



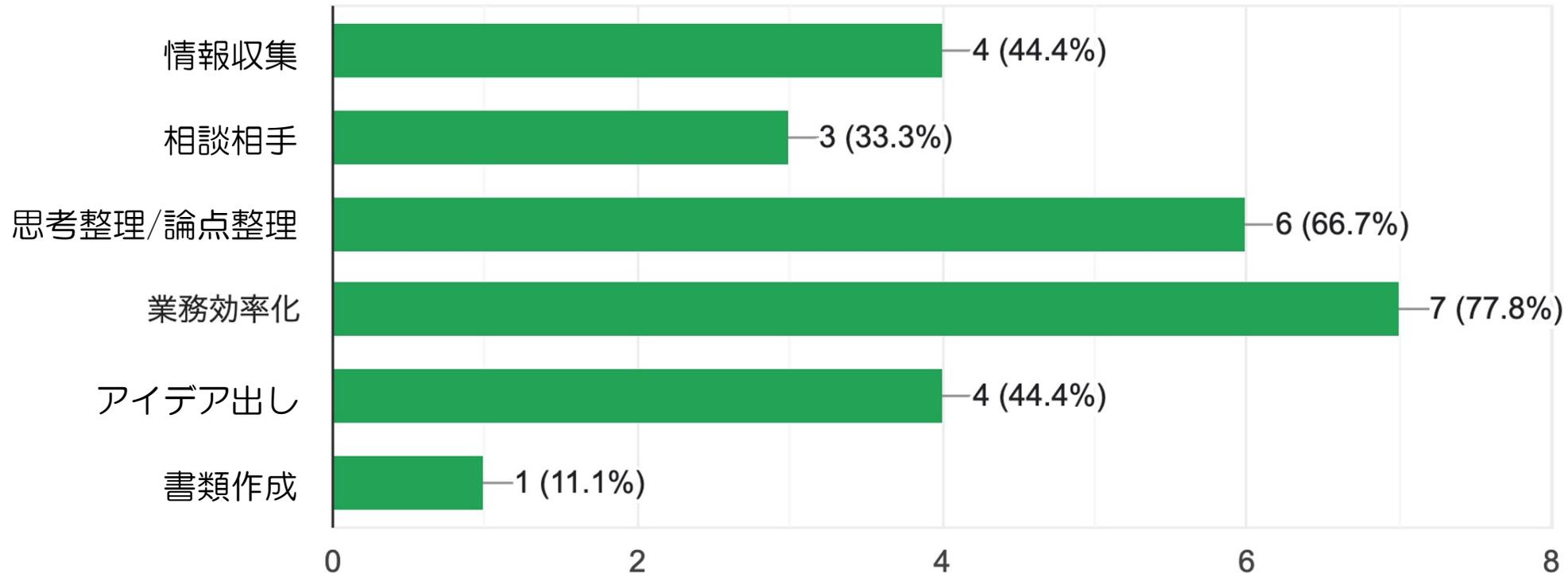
1on1MTGの一回あたりの時間はどれくらいが適切だとおもいますか？



結果としては分散した結果となった。業務の負荷との両立が課題。開催頻度についてはチューニングが必要。時間については今回は平均15分から20分の実施だったが、こちらもマネジメント側のコストを考慮する必要あり。

# アンケート結果⑨生成AIの利点

1on1MTGにおいてご自身がAIを活用した利点があれば教えてください（複数選択）



今回のMTG活用だけでなく、業務効率化やドキュメント作成についての可能性を示唆。  
実証実験としてはAIの活用について理解を深めるという点においては実際の利用を通して実感を得ていると判断。

# アンケート結果⑩AI活用のアイデア

仕事においてこういうシーンでAIが使えるかもというアイデアがあれば教えてください

- 医師や看護師が作成した報告者やカルテの整理、データベース化、分析
- 病院のホームページで見られた方がちょっとした質問などをAIが回答してくれることで、かかってくる問い合わせの電話などは減るのではないか
- ミーティング・カンファレンス等の要約や編集、クリニックイベントの年間スケジュールのアイデア
- 会議のアイデア出し、相談相手、議事録作成、論文作成時のサポーター
- 予診シーンにおけるAIによる患者情報の聞き取り

実際の利用を通してAIについての理解が深まり、他の業務への可能性を検討可能となる。  
実現可能なアイデアもあり、随時清風会では取り組む予定。

# 看護主任フィードバック



「1回目の1 on 1 MTGからでしたが、AIとの対話内容から話が限定して行うことができ、面談として話しやすさを感じました。その話題からさらに別の話題（今問題となっていることや業務改善しないといけないこと、業務に対する不安など）へ話が膨らみスタッフとのコミュニケーションがこれまでの面談よりも円滑に行えたと感じています」

# 考察1：定性

アンケート結果およびインタビューにより今回の実証実験は仮説を実証するものと判断できる。

## [実証実験仮説]

業務以外のテーマで上司と相談できる時間を取ることと、その際に論点が整理された状態でミーティングができるように生成AIを活用することが生産性の観点で有効かを検証。

①定期的な1on1MTGの時間を持つことは、上司部下双方にとって関係性向上に繋がり現場マネジメントとしてポジティブに働いていると言える。今回の実施においては業務についてのテーマが複数見られたが、私的な悩みの共有など不安につながる前に1on1MTGが実施されると他の医療機関においても同じような課題を解決できる余地があると推察される。ただし、頻度やMTGにかける時間については業務負担も考慮し設計する必要がある。

②生成AIと壁打ちをすることで個人では考えることができなかった「業務をよくするためのアイデア」や「抱えている悩みの論点整理」などが創出されることの意義は大きく、1on1MTGとの相性は良い。また論点整理されることにより上司側にとっても1on1MTGが取り組みやすいものとなる。

③今回の取り組みを通して生成AI活用の仕方について理解を深めることができ、他の医療シーンにおいてもAI活用について意欲が高まる。

④課題としては上司側の時間捻出の負担や開催頻度などは改善の余地あり。業務の効率化を推進し、チーム医療の質を高める時間を獲得するというサイクルを目指す。

## 考察2：定量

今回の取り組みにおいてAIを活用した価値算出と法人内全体で取り組んだ場合の仮説組み立て

\*今回は4ヶ月の実証実験であったため「中長期のエンゲージメント」や「離職防止数」、「アイデア実現数」などは数値化が困難。

### ①課題発見数

今回の実証実験  
の考察

課題となり得る論点を事前にキャッチアップすることができるMTGの効率性を考えると有効と判断

一回あたりのMTGでスタッフ一人あたり2点の論点をピックアップ

2点×9名=18点の論点を創出



法人内全体  
(250名)  
で実施した場合

課題発見数：4500件/回

### ②AI稼働ROI

カウンセリング役として人件費を考慮すると合理的

壁打ち相手として9名の論点整理役(1時間) = 9時間  
\*AIはMTG以外でも活用

9時間×6,000円(カウンセリング役想定コスト)  
=5.4万円

(今回AIツール利用料月額4万円)



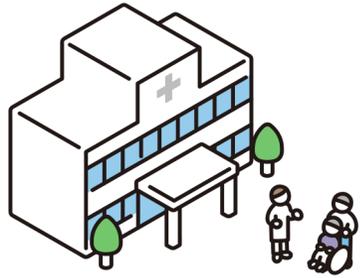
利用想定総時間250時間×6,000円=150万円/回

(AIツールは従量課金制で利用料を予測すると  
25万円から30万円/回)

# 今後について

- ①この度の実証実験においては1つのサテライトクリニックでの実施をしたが、アンケートおよびインタビューの結果により社会医療法人清風會全体で定期的な生成AIを活用した1on1MTGの実施を決定。
- ②その他存在する医療現場の課題を解決するために清風會では課題を特定し、AIの導入を促進するためのAI Projectチームを法人内に組成。
- ③AI for Community Health Care Labにおいてはこの度の実証実験結果とプロセス等のノウハウを他の医療機関へ提供予定。

# 地域医療の未来のためのAI実装



チームワーク/現場の力

より良い  
チーム医療

医療の質の向上

診療支援と負担の軽減

チーム推進力

業績の向上と関係性  
の向上

AIの実装

未来の医療に対して  
のアプローチ

時間とアイデアの獲得

# 理事長コメント

社会医療法人清風會  
理事長 森崇文

このAI技術のトライアル導入を通じて、医療介護業界の未来を切り開き、医療従事者のみならず、クリニック経営者やそのクライアントに新たな展望を提供します。私たちは、医療介護の現場が直面する課題を克服し、労働生産性を向上させることで、持続可能な医療システムの実現を目指しています。私たちのAIとの付き合いはここから始まります。一緒に未来を形作りましょう。

# 補足

今回の実証実験における  
1on1MTGの設計や生成AIの活用のノウハウ提供については  
AI for Community Health Care Labが担当。

## <実施項目>

- 実施企画立案およびオペレーションの組み立て
- 毎月のフィードバック定例MTG×3回
- アンケート×3回
- レポート作成

医療機関の皆様向けに「生成AIを活用した1on1MTG」設計サービスを提供いたします。  
医療マネジメントへの有効性はもちろん将来的に活用不可欠なAIについて現場も一緒に理解を深める機会になります。  
詳細はAI for Community Health Care Labサイト <https://aiforchclab.com> にメニューを掲載しております。  
是非ご確認ください。

# レポートについて

当レポートのお問い合わせにつきましては  
AI for Community Health Care Lab  
廣川 (hirokawa@aiforchclab.com) までご連絡ください。

AI for Community Health Care Labサイト  
<https://aiforchclab.com>